

糸島市の空家対策

市長短信
H28年8月25日

1 空家の現状と対策

■現状

- 市内の空家件数：3,550戸（全体の約9.4%）※平成25年度住宅土地統計調査
 - ◆賃貸用・売却用住宅：1,830戸
 - ◆その他（危険家屋含む）：1,720戸
- このまま放置すれば、倒壊等のおそれがある「特定空家」が増加する。



■対策

- 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の制定（平成27年5月施行）
 - 増加する空家の適切な管理を促し、地域住民の生命・身体・財産の保護、生活環境の保全、空家の活用を行う。
- 「糸島市空家等対策協議会」の設置
 - 国の基本指針に基づき「空家等対策計画」を策定、特定空家の抽出・指導などを行う。
 - 民間事業者や地域住民と協力して、空家の適切な管理や活用を推進する。

2 定住の受け皿としての空家

■校区間の人口増減に差

- 市全体で人口が減少する中、一部の校区のみ人口が増加
 - 校区間によって、164人増～116人減（H27年度）
 - 筑前前原駅東側のJR沿線の校区（4校区）だけが増加
 - 他の校区では、人口減少や高齢化が進んでいる。
 - 人口増加地域では住宅開発が行われているが、人口減少地域の多くは市街化調整区域で、開発が抑制されている。
- ⇒市街地周辺部の定住促進には、既存物件（空家）活用が有効

■空家を活用するために

- 空家バンクの開設
- 定住支援嘱託員の設置
- 地域コーディネーター設置
- 空家の調査・活用促進

【空家相談会の実施】

8月11日（祝）市役所1号会議室



- ◆空家の活用・管理に関する相談会
- ◆併せて移住に関する相談会も実施
- ◆宅建業協会、福岡銀行、前原司調会、シルバー人材センターなど専門機関による相談受付

- 43組（72人）が来場
- 改修、住宅ローン、相続、転入などの相談が主
- 転入希望が多いのに対し、紹介できる空家が少ない。空家バンクへの登録など、物件確保が必要。

糸島の星空に夢を描く

1 糸島の星空に実感する豊かさ

■豊かな自然に育まれた糸島の星空

- 福岡都心部から30分程の位置にありながら、糸島では美しい星空を見ることができる。
- 条件によっては、天の川や流星群を肉眼で見ることにも可能。

■「いとしま天文台」の整備

- ふるさと応援寄附金や県の補助金を活用し、移動式天文台を整備
- 今年度から、市民ボランティア「いとしま星空ナビゲーター(代表：竹野裕和氏)」に運営業務を委託し、観望会や出前講座等を実施している。
- 4月から8月までの延べ参加人数：664人(全17回開催)

⇒糸島の星空に豊かさを実感していただき、子どもたちの夢を育むきっかけになればと考えている。



二丈松国の星空



移動式天文台

2 「いとしま宇宙博」を開催(9月22日、伊都文化会館にて)

■松本零士氏による講演会

- 『銀河鉄道999』の作者、松本零士氏をお招きし講演会を開催
- テーマ「宇宙への夢」
- 14:30開演(伊都文化会館大ホール)
- 定員900人(入場無料、整理券事前配布)

■展示や工作体験、実験教室が盛りだくさん

- ボランティア団体、市民団体、九州大学、民間企業や近隣科学館などの協力を得て、様々な催しを企画
- 「太陽観察」「実物大はやぶさ模型展示」「いとしま星の写真展」「長糸の隕石展示」「科学実験教室」など
- 子どもたちの宇宙や科学への興味を育み、夢を創造するきっかけに、また、親子で夢を語り合う機会としてほしい。

【いとしま宇宙博】

- ◆日時：9月22日(木・祝)
10時～17時
- ◆場所：伊都文化会館
- ◆参加費：無料
- ◆事前申込等
- ◎講演会：
→下記で整理券を事前配布
- ①生涯学習課(9月1日～21日)
- ②各校区公民館(9月1日～15日)
- ◎科学実験教室
→生涯学習課で9月1日から受付開始



講師：松本零士氏